

REPORT

第6回 日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会を終えて

¹⁾久留米大学医学部 薬理学講座, ²⁾久留米大学病院 臨床研究センター
黒岩 真帆美¹⁾, 金子 富美²⁾, 西 昭徳¹⁾

会 期：2022年7月30日(土) 9:00~18:00
会 場：久留米大学筑水会館(現地とWebのハイブリッド開催)
会 長：西 昭徳(久留米大学医学部 薬理学講座)
テーマ：九州・沖縄地方会を起点とした臨床薬理の叡智の統合と創造

1. 開催概要

第6回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会は、2022年7月30日(土)に「九州・沖縄地方会を起点とした臨床薬理の叡智の統合と創造」をテーマに、久留米大学筑水会館にて開催した(Figure 1, Photo. 1)。前回の鹿児島大学が主催した「第5回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会」と同様に、Zoomのウェビナーを利用したハイブリッド形式での開催となった。オンラインでの参加が可能ということもあり、医師、薬剤師、看護師、CRCなど、多岐にわたる職種の方々に、全国各地から多数ご参加いただいた(現地参加51名、オンライン参加113名、計164名)(Figure 2)。

本地方会では、「九州・沖縄地方会を起点とした臨床薬理の叡智の統合と創造」のテーマのもとに、基礎・臨床研究から、臨床研究支援、多職種連携に至る、幅広い内容のプログラムで構成され、活発な討論が行われた(Table)。



Photo. 1 第6回日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会
会長挨拶

2. 教育講演

教育講演は株式会社EP総合の共催にて開催され、「新型コロナウイルス感染症：各種モダリティ医薬品の開発と治験実施に与えた影響」について、荒戸照世先生(北海道大学病院 臨床開発研究センター)にオンラインでご講演いた

第6回 The 6th Annual Meeting of The Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics Kyushu Okinawa Association

第6回 日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会

九州・沖縄地方会を起点とした 臨床薬理の叡智の 統合と創造

会期 2022年7月30日(土)

会場 久留米大学筑水会館(ハイブリッド開催)

会長 西昭徳 久留米大学 医学部薬理学講座 教授

● 演題申込・要旨登録締切: 2022年6月30日(木)

● 参加登録締切: 2022年7月29日(金)

学会事務局 久留米大学 医学部 薬理学講座 〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67
TEL: 0942-31-7545 FAX: 0942-31-7696
共催: 福岡県病院薬剤師会

第6回 日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会ホームページ
https://jscpt-6ko.softsync.jp

Figure 1 ポスター

著者連絡先: 西昭徳 久留米大学医学部薬理学講座 〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67
TEL: 0942-31-7545 FAX: 0942-31-7696 E-mail: nishia@kurume-u.ac.jp
投稿受付 2022年8月31日, 掲載決定 2022年9月26日

ISSN 0388-1601 Copyright: ©2022 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (JSCPT)

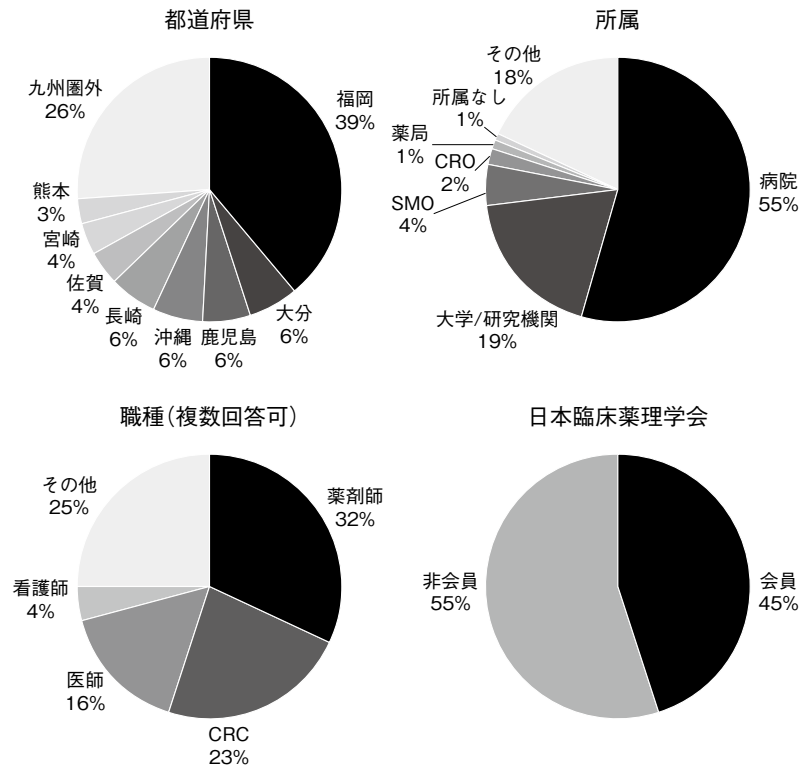


Figure 2 参加者の属性

だいた (Photo. 2). コロナ禍の中での医薬品やワクチンの開発, また, 治験実施や審査における特例承認や緊急承認について, 実例を交えてお話があり, 講演後にも活発な議論が展開された。

3. 一般演題

一般演題では, 小原仁先生 (久留米大学 バイオ統計センター) に, 「レセプトデータと病名データを活用した症例検索法は, 症例検索の業務を改善できるか? ~全国がん登録事業のケースファインディングを対象にした検証~」について, 酒井義朗先生 (久留米大学病院 薬剤部) に, 「新型コロナウイルス感染症治療薬における薬剤師の関わりとその考察」について, 根本隆行先生 (福岡大学医学部 薬理学) に, 「虚血性急性腎不全発症における遠位尿細管 Ca オーバーロードの重要性」について, 岩本英希先生 (久留米大学医学部 内科学講座) に, 「切除不能進行肝細胞癌に対する肝動注化学療法 New FP 療法への期待」について, 廣田豪先生 (九州大学病院 薬剤部) に, 「ヒト皮膚における薬物トランスポーター発現の個人差要因解明とその機能解析」について, 田中敦史先生 (佐賀大学医学部 循環器内科) に, 「無症候性高尿酸血症患者におけるフェブキソスタットの頸動脈内中膜複合体厚への影響: 多施設共同ランダム化比較試験 (PRIZE) からの新たな知見」についてご発表いただいた。基礎研究や臨床研究にとどまらず, 臨床研究支援についてなど, 多岐にわたる内容の発表があ

り, それぞれの発表において白熱した質疑が行われた。

なお, 厳正なる審査の結果, 根本隆行先生と廣田豪先生の2名が優秀発表賞に選出され, 表彰された。

4. ランチョンセミナー

株式会社マックビーの共催により開催されたランチョンセミナーでは, エーザイ株式会社にてアリセプトの開発に携わった, 杉本八郎先生 (同志社大学 生命医科学研究科) に現地までお越しいただき, 「アルツハイマー病征服を目指して」と題してご講演いただいた (Photo. 3)。アリセプト開発までの秘話や, 先生のこれまでの研究生活, 最近の動向などについてのお話があり, 大変有意義な講演内容であった。

5. 特別講演

特別講演は, ノボ ノルディスク ファーマ株式会社の共催にて開催され, 野村政壽先生 (久留米大学医学部 内科学講座内分泌代謝内科部門/久留米大学 臨床研究センター) に, 「超高齢社会における臨床研究の推進」についてご講演いただいた (Photo. 4)。これまで先生が行ってこられた肥満・糖尿病に関する臨床経験や, 基礎・臨床研究に基づいた超高齢社会における臨床研究の取り組みなどについてお話しされた。また, 久留米大学病院臨床センターのAROとしての役割についてお話しいただいた。

Table 第6回日本臨床薬理学会 九州・沖縄地方会 プログラム

9:00-9:05	開会の辞 会長 西 昭徳 (久留米大学医学部 薬理学講座)
9:05-10:05	教育講演 座長: 家入 一郎 (九州大学病院 薬剤部) 「新型コロナウイルス感染症: 各種モダリティ医薬品の開発と治験実施に与えた影響」 演者: 荒戸 照世 (北海道大学病院 臨床開発研究センター)
10:15-12:10	一般演題 座長: 山本 弘史 (長崎大学病院 臨床研究センター) 島ノ江 千里 (佐賀大学医学部附属病院 薬剤部) ①「レセプトデータと病名データを活用した症例検索法は、症例検索の業務を改善できるか?」 ～全国がん登録事業のケースファインディングを対象にした検証～ 小原 仁 (久留米大学 バイオ統計センター) ②「新型コロナウイルス感染症治療薬における薬剤師の関わりとその考察」 酒井 義朗 (久留米大学病院 薬剤部) ③「虚血性急性腎不全発症における遠位尿管 Ca オーバーロードの重要性」 根本 隆行 (福岡大学医学部 薬理学) ④「切除不能進行肝細胞癌に対する肝動注化学療法 New FP 療法への期待」 岩本 英希 (久留米大学医学部 内科学講座) ⑤「ヒト皮膚における薬物トランスポーター発現の個人差要因解明とその機能解析」 廣田 豪 (九州大学病院 薬剤部) ⑥「無症候性高尿酸血症患者におけるフェブキソスタットの頸動脈内膜中膜複合体厚への影響: 多施設共同ランダム化比較試験 (PRIZE) からの新たな知見」 田中 敦史 (佐賀大学医学部 循環器内科)
12:20-13:20	ランチョンセミナー 座長: 小路 純央 (久留米大学 高次脳疾患研究所) 「アルツハイマー病征服を目指して」 演者: 杉本 八郎 (同志社大学 生命医学研究科)
13:30-14:30	特別講演 座長: 西 昭徳 (久留米大学医学部 薬理学講座) 「超高齢社会における臨床研究の推進」 演者: 野村 政壽 (久留米大学医学部 内科学講座内分泌代謝内科部門/久留米大学 臨床研究センター)
14:40-16:10	シンポジウム1 「臨床研究支援に何を期待するか?」 座長: 植田 真一郎 (琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学講座) 武田 泰生 (鹿児島大学病院 薬剤部) ①「デジタル技術を活用した臨床試験の効率化と信頼性確保」 上野 太郎 (サスメド株式会社) ②「治験支援体制のマネジメント ～治験業務効率化と SMO との協働～」 鶴丸 雅子 (長崎大学病院 臨床研究センター) ③「出口を見据えた入口からの生物統計家の支援 ～久留米大 ARO の支援実績から見るノウハウ～」 室谷 健太 (久留米大学 バイオ統計センター) ④「研究者への適切な支援体制の拡充に向けて ～PI と伴走する臨床研究専門職の育成～」 植田 真一郎 (琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学講座) 総合討論
16:20-17:35	シンポジウム2 「多職種連携による薬物治療のリスク評価とリスク回避」 座長: 上村 尚人 (大分大学医学部 臨床薬理学講座) 柳田 俊彦 (宮崎大学医学部看護学科 臨床薬理学) ①「タスクシフティング・タスクシェアリングによる多職種連携とチーム医療」 池田 龍二 (宮崎大学医学部附属病院 薬剤部) ②「多職種連携によるがん薬物治療のリスク評価と患者支援: 看護の視点でのアプローチ」 畑中 明子 (大分大学医学部附属病院 看護部) ③「種子島におけるポリファーマシーへの取り組み」 徳重 明央 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 医歯学教育開発センター) 総合討論
17:35-17:45	優秀発表賞 表彰
17:45-17:50	次期会長のご挨拶 次期会長 家入 一郎 (九州大学病院 薬剤部)
17:50-18:00	閉会の辞 会長 西 昭徳 (久留米大学医学部 薬理学講座)



Photo. 2 教育講演風景 (オンライン講演)



Photo. 4 特別講演風景



Photo. 3 ランチョンセミナー風景



Photo. 5 シンポジウム1 総合討論風景

6. シンポジウム

シンポジウム1「臨床研究支援に何を期待するか？」では、4名の先生方にご講演いただいた。上野太郎先生（サスメド株式会社）に、「デジタル技術を活用した臨床試験の効率化と信頼性確保」について、鶴丸雅子先生（長崎大学

病院 臨床研究センター）に、「治験支援体制のマネジメント ～治験業務効率化とSMOとの協働～」について、室谷健太先生（久留米大学 バイオ統計センター）に、「出口を見据えた入口からの生物統計家の支援 ～久留米大AROの支援実績から見るノウハウ～」について、植田真一郎先生（琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学講座）に、「研究者への適切な支援体制の拡充に向けて ～PIと伴走する臨床研究専門職の育成～」についてご講演いただき、総合討論では、さまざまな立場からの臨床研究支援について、活発な議論が行われた（Photo. 5）。

シンポジウム2「多職種連携による薬物治療のリスク評価とリスク回避」では、池田龍二先生（宮崎大学医学部附属病院 薬剤部）に、「タスクシフティング・タスクシェアリングによる多職種連携とチーム医療」について、畑中明子先生（大分大学医学部附属病院 看護部）に、「多職種連携によるがん薬物治療のリスク評価と患者支援：看護の視点でのアプローチ」について、徳重明央先生（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 医歯学教育開発センター）に、「種子島におけるポリファーマシーへの取り組み」について



Photo. 6 運営スタッフ

ご講演いただき、総合討論では、多職種連携やチーム医療の意義や重要性、今後の展開について議論された。

7. 終わりに

第6回日本臨床薬理学会九州・沖縄地方会は、新型コロナウイルス感染症「第7波」感染急拡大の状況での開催となったが、ハイブリッド形式での開催を当初より準備していたため、混乱なく予定どおりのプログラムで開催することができた。大会テーマにもあるとおり、九州・沖縄から全国に向け、臨床薬理学の情報を発信できたと思われる。開催1カ月前まで情報交換会を計画していただけに、「第7波」感染急拡大のために情報交換会の開催を断念せざるを得なかったのは残念である。

久留米大学医学部薬理学講座は基礎薬理(中枢神経薬理)の講座であり、久留米大学病院の臨床研究センター、薬剤部と連携することにより開催することができた。プログラ

ム内容はコロナ治療薬開発、基礎・臨床研究、臨床研究支援、多職種連携など多岐にわたったが、専門外の話もじっくり聞いて今後の業務や研究の参考になったという意見をお寄せいただき、地方会ならではの良さが出せたのではないかと考えている。

次回、2023年は、九州大学病院 薬剤部の家入一郎先生のもとで開催される予定である。第7回地方会も盛会となることを祈念するとともに、本地方会のさらなる発展に尽力したい。

最後に、今回の地方会開催にあたり、久留米大学薬理学講座だけでなく、久留米大学病院臨床研究センターならびに久留米大学病院薬剤部の皆様 (Photo. 6) に多大なるご協力をいただいたことに感謝いたします。また、開催の趣旨にご賛同いただき協賛をいただいた企業の皆様に心から感謝申し上げます。